第 20 回「市長と語るタウンミーティング」を開催しました

１　日　時　令和８年９月７日（月）　午後５時～

２　場　所　長谷川米穀店

※参加者である店主の中川様のご厚意で、お店をお借りしました。

３　参加者

四国学院大学　教授	仙石　様	
劇団やぶれかぶれ　代表	小林　様	
長谷川米穀店　店主	中川　様	
四国学院大学４年	吉田　様	
善通寺第一高等学校２年	多田　様	
尽誠学園高等学校３年	真鍋　様	計６名

４　会議の概要

【テーマ】演劇を活用した賑わいづくりについて　　～演劇を地域資源に～

１．開会

２．主催者挨拶

３．参加者紹介

４．演劇を活用した賑わいづくりについて　概略説明

５．タウンミーティング

６．閉会

5　いただいたご意見

【テーマ】演劇を活用した賑わいづくりについて	
発　言　者	ご　意　見
仙石　様	・地域で即興演劇を開催したことで、高齢者が毎月楽しみに集まる居場所が生まれた。 ・演劇には「笑い」や「明かり」を生み出し、まちの雰囲気を変える力がある。 ・善通寺市は、保育園から大学までの教育機関に加え、病院や福祉施設が集まるコンパクトシティであり、教育の連続性や市民参加のしやすさが強みである。 ・演劇ロードマップの案を作成しており、初年度はダンデライオンズ公演、子ども向けインプロ（即興演劇）ショーや、月１回のインプロ（即興演劇）ゲームを通じた場づくりを進める。 ・２年目以降は、個別に行われている演劇活動をつなぎ、毎年決まった時期に演劇イベントが開催される仕組みをつくることで、観光やまちづくりにつなげたい。 ・演劇を学校教育に取り入れ、現在実施している小学校１校から他校へと広げ、継続的な取り組みにしたい。演劇は勝ち負けのない「人間関係の芸術」であり、遊びを通じて多世代が交流できる場となる。台本を読みながら演じる活動なども含め、市民が参加できる機会を増やしたい。 ・演劇を通じて、学生が地域に残る、または卒業後に戻ってくる循環が生まれつつある。 ・演劇は「心のたべもの」であり、善通寺市で教育を受けることで文化的な資本を得られることを、市の魅力として発信したい。
小林　様	・健康づくりの会をきっかけに演劇に関わり始め、観客から「よかった」と声をかけられたことが喜びとなり、同世代にも演劇の魅力を広めたいと考えるようになった。 ・市民から「人生が楽しくなった」という声が多く寄せられており、演劇にはまちを活性化させる大きな可能性がある。 ・善通寺市は新しい人を受け入れやすく、お接待の文化もあり、他地域から来た人も地域に入りやすい。高齢者と若者が共に舞台に立つ文化活動にも適している。 ・プロの音楽家やダンサーとの共演、シニア劇団による上演を通じ、市民が本格的な文化芸術に触れる機会が生まれている。 ・ジャズフェスティバルのように、決まった時期に善通寺市で演劇を楽しめる場をつくりたい。その実現には、幅広い市民が参加しやすい即興演劇が適していると考える。

中川　様	・大阪から移住後、四国学院大学の演劇コースの公演を観て衝撃を受けた。演劇には、笑いを生み出す面白さとともに、作品を通じて自分自身の課題に気づき、成長につながる力がある。 ・善通寺ならではの強みは「人」であり、行政・学校・地域のつながりの強さが演劇文化を育む土台となっている。 ・演劇を応援することが商店の経済効果につながり、他地域の店主がワークショップに参加するなど、演劇を軸とした地域循環が生まれている。 ・少人数から始まった演劇の魅力や人のつながりが、徐々に広がっていることを感じている。 ・地道な活動と口コミによって演劇の魅力を発信し、将来的には下北沢のように演劇と商店が共存する街を目指したい。 ・演劇は難しい作品であっても、鑑賞を通じて何らかの気づきを得られるものである。幼少期から演劇に親しみ、学校教育に取り入れることで、人間性を育むことができる。多世代との交流を通じて人間力を磨く機会をつくってはどうか。 ・演劇は全年代が楽しめる文化であり、世代を超えた交流や地域の活性化につながると考える。
吉田　様	・演劇は生の表現であり、人と人が対面することで直接伝わる芸術である。観客との距離が近く、心に何かを残す力がある。 ・善通寺市は大学と街の距離が近く、地域とのつながりが強い。地域住民が積極的に学生を応援し、公演の集客も年々増加するなど、街ぐるみで学生を支える環境がある。 ・演劇は、鑑賞する側にも演じる側にも、日常とは異なる世界を体験できる機会をもたらす。 ・外部アーティストを招いた作品づくりや、多様なジャンルの舞台を集めた演劇祭を開催することで、卒業生が戻りたくなる街を目指したい。地域内外の交流を促し、善通寺市の魅力を広く発信することにもつながる。 ・学校と地域の取り組みをつなぎ、小学校の配布プリントなどを通じて保護者にも文化芸術に触れる機会を提供してはどうか。 ・演劇に関わるきっかけを増やし、より多くの市民が参加できる環境を整えたい。
多田　様	・小学生の頃は音読や朗読が好きだったが、中学校では恥ずかしさから離れていた。その後、高校で演劇部に誘われ、周囲の支えを受けて舞台に立ち、友人からの称賛によって自信を得た。 ・演劇を始める前後では、人との関わり方にも変化が生まれた。 ・ふさぎ込んでいた友人を演劇に誘ったところ、鑑賞後に性格が明るくなる変化が見られた。 ・四国学院大学や尽誠学園高校との交流が増え、演劇には人を前向きにする力があると実感している。 ・演劇のある街には楽しそうな印象があり、演劇文化の広がりが街の魅力向上につながると考える。

真鍋　様	・幼い頃から本の音読や朗読が好きで、自然と演劇に親しんできた。 ・初めて舞台に立った際、自分を表現できたことで気持ちがすっきりし、演劇が自己表現の場になることを実感した。 ・演劇は目に見えないものを形にできる表現手段であり、自己肯定感を高め、自分自身を見つけるきっかけとなる。 ・善通寺市は学校と街の距離が近く、市民との交流が多い、温かい地域であると感じている。 善通寺市の温かさを演劇を通じて形にし、地域の魅力として伝えていきたい。 ・今後も演劇を通じて自分自身を見つけ、表現する力を磨いていきたい。